

普門寺

臨濟宗で本尊は十一面観音である。

古くこの地に大内正恒が創建した寺があったが、延元元年（一三三六）大内弘直が再建し、その菩提寺となった。

大内義隆の時勅願寺として重建したが、陶氏の兵乱の時に焼失した。天正年間、維松円融が中興開山となり再興した。幕末文久三年（一八六三）四月に萩の藩府が山口に移り諸般が改革されたが、この時大村益次郎は藩命により江戸から帰り、山口明倫館の改組に当たった。

大村は山口ではこの普門寺境内の観音堂を宿舍としてここに起居したが、諸生の希望によりここで兵学を教授した。当時これを普門寺塾、三兵塾などと称していた。